

語り継ごう、明日へ。

歴史はいつも未来へのみちしるべです
世の中の進むスピードと自分の生きていくペースが
少し合わなくなってきたなと感じ始めたら
いつか来た道まで戻ってみましょう



家の中でアウトドア？

今年の夏のような節電が常態化して、電気がこれまでどおり使えなくなったとしたら、いったい何年くらい前の生活に戻れるか考えたことはありませんか。家庭にあるのは小さな扇風機くらいという時代には、窓を開けて蚊帳を吊って寝たものです。風が通らずとても寝苦しく、寝ごさなども役に立ちませんでした。でもホタルを放したりして、子供心にはテントに入っているようで楽しかった思い出も。ようやく寝付いたと思ったらすぐに暑い一日の始まり。これほどではないですが、電気に頼らず暑さを乗り切ることに、今から慣れておく必要があるそうです。



- ・時の街角／旧樋口家農家住宅——2
- ・マチの博物館／祭屋・永井——3
- ・川筋を行く／創成川——4
- ・来た道／行く道／リペアカンパニー——5
- ・あるはむレトロポリス／とうきび売り——6
- ・道具で道草30年——7
- ・紙の話①——8

二〇二一年夏(年四回発行)

発行：(社)印刷紙工

札幌市中央区南十五条西十八丁目
TEL(011)561-1598

編集：ひと街ごと刊行会

札幌市中央区北一条西十七丁目 北海道不動産協会四階
(詢)編集工房海内 TEL(011)633-1651

時の街角

北海道開拓の村から



明治元年から数えて百四十年が過ぎましたが、まだまだ道内各地に残る移住者たちのお国柄建物もまた例外ではありません。

富山県の伝統様式を伝える農家住宅を紹介します。

建築に二年がかり、富山県の伝統様式。

旧樋口家農家住宅

明治三十一年（一八九八）建築

北前船の時代から北海道との交易が盛んだった、富山県からの移住が本格化するの、道庁が集団移住者に対して保護策を打ち出した明治二

十五年以降のことです。同三十五年から四十年にかけての同県からの移住者は全国でも最多。砺波地方出身者による空知管

内栗沢町（現岩

見沢市）への入

植はよく知られ

ています。

札幌へは明治

十五年ころから

始まり、篠路獅

子舞（札幌市北

区）や丘珠獅子

舞（同東区）は富山県人がもたらした

ものですし、札幌駅前には同県の観

光案内所も入るテナントビル、北海



こんな素朴な井戸。どこかで見たことが...

道富山会館（札幌MTビル）がありま

す。

富山県人の勤勉さと粘り強さが何

えませんが、今回

の樋口家が、明

治二十六年（一

八九三）に入植

してからわずか

五年でこのよう

な立派な家を建

てているのも、

その表れでしょ

う。場所は現在

の札幌市厚別区小野幌。札幌近郊と

はいえ、多くの入植者の初期の粗末

な住まいを考えると、相当な努力が

あったことと思われま

す。

樋口家の一番の特徴は、富山を代

表する建築様式、ワクノウチ造り

を取り入れていることです。十五畳敷

の広間の天井を見上げると、井桁状

に組み上げた太い面取りの角材最

大三七^{センチ}×三〇・五^{センチ}。いかにも

強固な造りは、江戸時代から継承さ

れている伝統的な民家の構造です。

富山出身の棟梁に建築を依頼し、材

料は近くの原始林から切り出して、

二年がかりで建てたそうです。

その一方で格式も重んじて、客用

の表玄関と家人用の裏玄関があり、

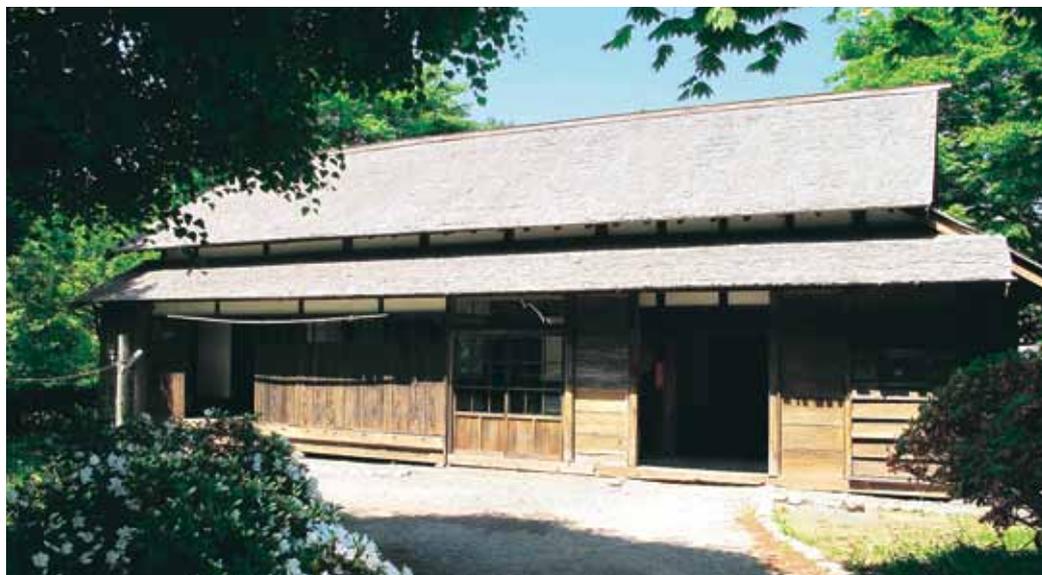
裏玄関からは土間、板間の台所、流

しへと入ります。部屋はこのほかに

仏間や納戸（寝室）、かねての座敷

富山県の伝統建築様式、ワクノウチ造りは天井の太い角材の組み上げが特徴。仏間や客間、居間、台所など一般の住宅より部屋数も多く広く造られている。

※参考文献 北海道開拓の村・開村10周年記念誌、さっぽろ文庫54「県人会物語」



正面入口。右側が家人用の裏玄関
まん中が客人用の表玄関
軒葺き屋根からいかに農家らしい

（客人用）、ミソや漬物、農機具などを収納するダシヤがあります。これだけの部屋があるので、その面積は約四十坪という実にゆつたりとした平屋。昭和四十年代までは、札幌にもこんな農村風景があったということです。

「祭屋・永井」は知らなくても、狸小路一丁目(札幌市中央区)の作業服を専門に扱っている店は知っているかもしれない。ここ「ワークマンナガイ」の店内に、祭りグッズがずらりと並んでいるのです。その数五千点はあるという永井幹朗専務(四三)に話を聞きました。

こちらの創業は戦後すぐの昭和二十三年(一九四八)。「北海道でも早い時期に開店した作業服の専門店(永井専務)ですが、実はこの時からすでに祭りとのつながりがあったのです。「大八車を押して仕事していた人たちの格好を思い出してください」と永井専務。そういえばとび職のユニ

どこで売っているのだろうと考えることがあります。祭り用の半てんや足袋、鉢巻はどこで? 呉服店や和装小物店でもなく、おもちゃ屋でもなく……それがあのです、祭り用品専門店が!!

創業六十三年、祭り好きが冬も来店。

ホームは、まさに会社のマークが入った印半てんに腹掛け、股引き姿でした。それが次第に祭り専用に移り変わり、作業服メーカーも祭り中心に作ってきたということなのです。

「ワークマンナガイ」内に祭り用品専門コーナーが出来たのは二十五年ほど前。今年二十回目のYOSAKOIが始まる少し前です。北海道神宮祭や狸小路祭り、



会社のユニホームだった半てんも、今では色とりどりのデザインで祭りの雰囲気を出す

みこしの会、ススキノの飲食店などの需要に応じていたところへYOSAKOIの大ブレイク。専門店としての存在が大きくなるアップされました。さて、祭りに欠かせない衣装と

半てん、股引き、腹掛け、足袋……その数5000点

大事なお道具、鉢巻と雪駄。札幌だけでなく全道にお客さんが、「連休を利用して函館などから来る人もいますよ。度々来られても、それほど新しい



の口のように袖口が丸くなった「永井専務」下着のことです。まだまだあります、帯、鉢巻、足袋、ワラジ……えっ、ワラジ? 好きな人はワラで編んだものを履くそうだし、持ちのよいナイロン製



粋な半てん姿の永井幹朗専務

いへばまず誰でも知っている半てん。それから股引き、腹掛け、鯉口。鯉口というのは「鯉

も。足袋も各種あって、ヒット中なのがエアークッション付きのもの。ゴム底で手縫いの感触にこだわる人もいます。これだけそろっているのですから、



充実の祭用品コーナーは店の奥にある

Iの下見も冬から始まっているとか。どこまでも祭りが好きな人はいるものです。

いものが出てくるわけでもありませんが」と永井専務は笑います。



見落としがちな祭用品の看板が目印

創成川

川筋を行く

人と川の
様々な
かわりを
かかわり
たずねて

創成川公園オープン

忘れられた「川の顔」、 人工的要素が目立つ。

そもそもが人口河川、運河だった創成川。何度も護岸工事が施され、草が生え、木が茂って目にもなじんできたのにまた大工事。都心部はおそらくこれが最終型でしょうか。

身をみ
ると、主目

創成川の中央
区南五条から北三条の
間。工事期間中は、あつたはずの
流れがどこかへ
消え、一体どん
な空間が出来上
がるのかわから
なかった人も多
かった創成川事
業計画です。

の南北間は地上部を通
過した創成川通の、南ア
ンダーパス(南五条〜南二条と北ア
ンダーパス(大通〜北
三条)の二つの地下車
道連続したものにする
こと。つまりは都心
の交通混雑の緩和です。
合わせて地上部の創
成川を快適な親水空間
にしようと、今年四月に

南の端南四から
大通方向を望む



上/アンダーパスの南5条側出入口
下/ホテルの下を流れる



今年四月に

お目見えした
のが創成川公園です。
いわば札幌市の歴史的
シンボルの変容は、市民
にどんな印象でしょうか。

まず川といえば、その大小
に拘わらず流れがあつて草や木
が生えていて、というのが大方の
狸小路一丁目と二条市場がつながる



創成川(大友堀)を造った大友亀太郎像



上/創成橋が復活 下/ライオンキング(公演中)
イメージですが、ここは都市公園
の修景の一つのようです。川の真
ん中に踏み石も敷かれているほど



異彩を放つ軟石造りの北一条教会
公園が格好の写生の場所となった

ですから水にも勢いが無いのは当
然でしょう。この先、両岸に草が
生えてきたとしても、景観優先で手
入れが行われていくはずですから、
親水空間というには物足りません。
それだけ公園としての要素が多
いことになります。きれいに整備
された広場や遊歩道、ベンチ。大
理石の彫刻など芸術作品の多いこ
と。芝生に憩える場所も多く、こ
こが百九十九万人都市のど真ん中、
ビルの谷間とは思えません。特に
テレビ塔の一带は大きく変わりに
ました。

そしてこの公園の役割はもう一
つ。これまで創成川で分断されて
いた東一丁目から東のいわゆる
ライオンキング地区、
とスモーズに行
き来できるよう
にすることです。
大通公園から公
演中のミュージ
カル「ライオン
キング」へ直行
できますし、狸
小路から二条市



芸術作品と相まってテレビ塔下が大きく変わった
場周辺への流れも良くなりました。
完成したばかりのせいか、総じ
て人工的要素が目立ちます。樹
木も少ないようです。同じ人工的
なものでも噴水とか水の流れに強
弱をつけるとか、もう少し「川の
顔」があつてもよかったです。



上/札幌駅東側。JRタワーが見える
下/アンダーパスの北4条側出入口

来た道、 行く道。

様々な先輩がいるからこそ
二十一世紀があるんだよ——
スローコミュニケーションを求めて。

本欄への自薦他薦を
お待ちしております。

いい仕事ぶりはクチコミで広がるものですが、そうして舞い込んでくる注文に常に応えることができるのは、開業以来、少しずつ拡充してきた器械類と、こつこつと取集を怠らなかつた材料があるからこそです。その材料とは糸、金具、そして革の端切れ。阿部起暖さん(五)の確かな技術を支えるパートナーたちが、小さな工房にぎっしり。



400色の革用ミシン糸のほんの一部

車販売の会社に勤めながら、いずれは独立して何かをやりたいと考えていた阿部さん。たまたま親戚が経営する靴修理チェーンの店舗に、何の技術もなく転職しました。お客も少なく時間的に余裕があつたので、靴用のミシンで、革の小銭入れやタバコケースを作ったりしたのが

「パニー」。平成四年(一九九二)のことです。一口にバッグの修理といっても、その症状はいろいろ。ファスナー交換、取っ手交換、内張り交換、型くずれ修正、金メッキ処理、シヨルダーベルトなどの製作・改造——まだまだあります。阿部さんの仕事のやり方は、持ち込まれた修理にまず希望を聞くこと。単に直せばよいのか、強度を加えるのか、デザインも見栄え良くするのか、そして予算は——と。修理だけでなくそこに阿部さん独自の提案を加えるのです。

今年そろえたハイポストミシンでバッグの底の修理も楽になった

この道に入るきっかけでした。もともとモノを作るのが好きだったので、口の重い先輩職人たちから聞くなどして、独学で修理のできるレパトリを増やしていき、五年後に独立したのが現在のかばん修理専門工房「リペアカンパニー」。

かばん修理専門工房
リペアカンパニー
札幌市東区北23条東7丁目5-11
TEL (011) 702-8801



ルパーツ、ファスナー類、さらには様々な革の端切れです。いかに多いかは在庫があるのにメーカーに頼んで失敗することも度々」と阿部さんの言うほど。そして最も心強い味方は、阿部さんが「これだけそろえている店は道内にはないのでは」と言う器械類。使い方がそれぞれ



手前から八方ミシン、腕ミシン、ハイポストミシン



北光線沿いにある小さな修理工房

三台のミシンと 四百色の糸、金具で 修理に提案をプラス。

阿部起暖さん——札幌市・リペアカンパニー

最強といえば、頼もしいパートナーも忘れてはいけません。奥さんの博美さんが十年ほど前から、バッグの内装を手伝ってくれるようになったこと。最近はお奥さんの手が早くなつて「追いつかないこともある」と苦笑する阿部さんです。



阿部起暖さんと妻の博美さんのコンビ

れ異なる三台のミシン、革すき機、緑折リたみ機と、これまで万全です。特にこの春に加わ

ったハイポストミシンは、バッグを細長い円柱状のポストに入れて底を縫えるという高性能機。偶然にも東日本大震災の日になつて届いた「そうず」。



工房内は器械5台のほか、20年かけて集めた糸、金具、ファスナー、端切れ類で一杯

制服姿の売り子さんもいた(昭和42年8月)



とうきび売り

この時季にはもう冷凍でなく生が出ているのではとぶらり歩いた大通公園にとうきびワゴンの数の少ないこと西三丁目に三台あるほかは一丁目と四丁目それぞれ一台売り上げの減少で存廃も検討されているとか――

今は昔、93万本も売った……。

しんとして幅広き街の秋の夜の玉蜀黍の焼くるにほいよ
漂泊の歌人、石川啄木がこう詠んだのは明治四十年(一九〇七)九月。札幌にはわずかに二週間の滞在でしたが、とうきびには強い印象があったのでしよう。

札幌観光協会によると、街なかで焼いたトウキビが売られるようになったのは明治中ごろから。大通公園に屋台が軒を並べるのは昭和三十

年代。市民の憩いの場として賑わうようになってからです。

その賑わいとともに様々な屋台も出現し、公衆衛生上や道路交通上も好ましくないと昭和四十一年、屋台は全面撤去されました。しかしとうきび売りはやはり札幌名物という惜しむ声に推されて翌四十二年、札幌観光協会の運営で再開され、今日にいたっています。再開当時の値段は、焼きとうきび四十円、ゆでとうきび三十五円で

最高記録が昭和四十八年の約九十三万本とは、冬季オリンピックで一躍世界の観光都市となった効果も手伝ってのこと



今も変わらぬ札幌大通公園名物、一本300円
黒もちきび、ジャガバター、アイス類もある

でしよう。公園のベンチに腰掛けながらのハーモニカスタイルが、札幌にマッチしてしまいました。
その売り上げも年々減って、昨年度は過去最低の十三万七千本とか。あちこちで安くおいしく食べられ、また嗜好の変化もあるでしょう。ワゴンで売られているのは、焼き、ゆでのほかに黒もちきび、じやがいも、ラムネ、かき氷、アイスクリームやアイスキャンデーなどたくさん。ちなみにとうきびは焼き、ゆでとも一本三百円です。
売り上げの低下で、販売ワゴンも現在五台と以前に比べて少なくなりました。公益財団法人制度の改革で札幌観光協会自体の運営も厳しくなりそう、とうきび売りの存廃が検討されていると聞きます。啄木の時代から続いているとうきび売り。何とか残してほしいものです。



ワゴンにトウキビがずらりと並んで大盛況開店を待ちかねていた人たちもたくさん(昭和48年4月24日)
※上4枚は札幌市文化資料室提供



上は昭和38年9月の大通公園。トウキビ売りだけでなく様々な屋台が
下はスキノのトウキビ売り。焼きイカなどもあった(昭和55年8月)

道具で

道草30年

誰にも思い出がある初めて読んだ大人の本
筆者には叔父の泰治さんからもらった本が忘れがたい
先ごろ亡くなったその叔父さんを追悼しての一文

坂一敬

レトロスペース坂会館 館長（坂栄養食品 開発部長）

三月の初め、私の大好きだったおじさんが八十二歳で亡くなった。とても悲しかった。本当に大好きだったんだから。亡くなる前日、病室に入っていた時、

「泰ちゃん、加減はどう？」

「おお、一敬ちゃんか！」

天の配慮と言うべきか病室には誰もおらず、二人だけの濃密な時間を過ごすことが出来た。別れ際、「食事は食べようと思えば食べられるけれど、もう食べない。十分に生きてもう寿命だ。これでいい。でも一敬ちゃんはガンバレ」そう言って私の手を握ってくれた。

前日より少し弱めであったけれど、でもまだ力はあった。翌日亡くなるのはとても思えなかった。もう少しガンバってみよう。そう思って二階の五一〇号室を後にした。

今は亡き母の弟だったから、子供の頃から知ってはいたのだけれど、仲が急速に縮まったのは十三歳頃から。

中学の帰りにおじさんのところに寄ると、映画に行こうと言う。「肉の蠟人形」という当時はやりだした飛び出す映画。ピンクと青のメガネをかけると画面が浮き出てくる映画

で、今で言う3D。私が見た最初のカラーの映画でもあった。とても怖い映画で、私は耐えられず何度も紙のメガネをはずした。

松竹の泉京子、そして新東宝の前田通子、小畑絹子、三原葉子、万里昌代、魚住純子、三条魔子。泰ちゃんからそのグラビアを買い、せつせと

泰ちゃんにももらった『洞窟の女王』。



小山書店の世界大衆小説全集に収められた『洞窟の女王』（昭和31年初版）。同書店はチャタレー裁判でも知られた出版社



レトロスペースを始める時に、展示品にと叔父さんから寄贈された自動巻き腕時計

子供向けの本しか読んだことのない私は読んだ。しかしこの『SHE』を越える小説には、ついにぶつからなかった。

後年、イギリス

に行った時、一番の目的はマルクスの墓、そして向この古本屋でペーパーバックではない『SHE』の原書を買うことであつた。中ぐらいの古本屋に入り、日本から来たこと、ハーガットが大好きなこと、そして『SHE』。自分の予算はこれくらいと、店番のおやじさんにつたない英語で言った。

おやじさんは少し考えて棚から一冊の本を抜いて私の前に置き、これでどうだろうと言って私の顔を見た。ハードカバーでその古び具合も時代を感じさせる。代金を払って礼を言う、あなたの発音はなかなかいい、言うことがよくわかったとほめてくれた。この本はとても大切にしてい

ただだけれど、部屋に遊びに来た英文科の女子学生が目ざとく見つけ、貸してくれと言って持っていく、ついに帰って来なかった。今でも残念に思っている。

でも、泰ちゃんから貰った『洞窟の女王』は今も宝物として私の部屋にある。最高の本を中学一年の時に読めたことは、本当に幸せだったと感謝している。

泰ちゃんが亡くなってしばらくして宮の森の家に行った。奥さんの悠子さんの話では、泰ちゃんの蔵書は、古本屋を呼んだところ四十万の値がついたそうだ。さすが泰ちゃん、定価に直せば五百万以上のはず。それとビデオ。全部捨てたと言う。最後に残ったビデオは私が貰った。それでもタクシーでなければ運べない量。エマニエル夫人は最初の版もヘアー解禁版も両方あった。DVDは一枚もなかった。私もおじさんもビデオ世代なのだ。今、貰ったビデオを限られたスペースにどう飾ろうか思案中だ。

岡部泰治おじさん（千秋庵常務）、本当にありがとう。あなたのような人に会えて、本当に良かったと思っています。

後にテレビの深夜番組でこれがかかった時、もう一度見たのだけれど、ちっとも怖くなくなつた。でも十三歳のその時は怖かった。シヨーン・コネリーの007も全部、おじさんと見に行った。

私はこのおじさ

んのことを泰（たい）ちゃんと言っていたのだけれど、泰ちゃんの部屋には、実話雑誌が沢山置いてあり、性目覚め始めた私には、グラビアを飾る女性たちがスターだった。

日活の筑波久子、大映の毛利郁子、

リヒトにスクラップした（今でも手元にある）。

ある日、一冊の本を借りて読んだ。ヘンリー・ライダー・ハーガット作、大木惇夫訳、『洞窟の女王』原題『SHE』である。この本は、それまで

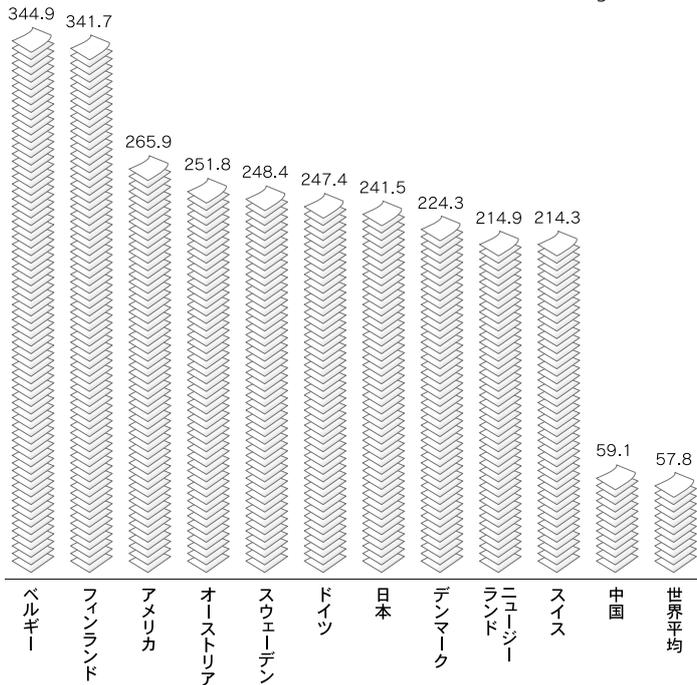
紙の話 ① 紙は文化のバロメーター

ペーパーレス時代といわれますが、私たちが日ごろ得る情報は、朝一番に開く新聞、チラシ、そして本など印刷物からのものがたくさんあります。そうした印刷物も含めて、紙の消費量は国の文化度に比例するといっても過言ではないでしょう。(出典/いずれも日本製紙連合会HPから)

日本の国民一人当たり の紙・板紙の消費量は約242kgで 世界第7位。

国民一人当たりの紙・板紙消費量<2008>

(単位: kg/人)

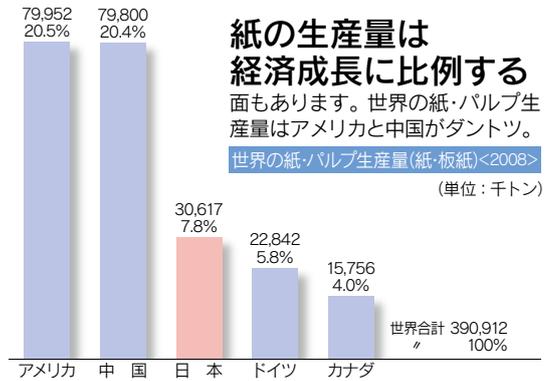


紙の生産量は 経済成長に比例する

面もあります。世界の紙・パルプ生産量はアメリカと中国がダントツ。

世界の紙・パルプ生産量(紙・板紙)<2008>

(単位: 千トン)

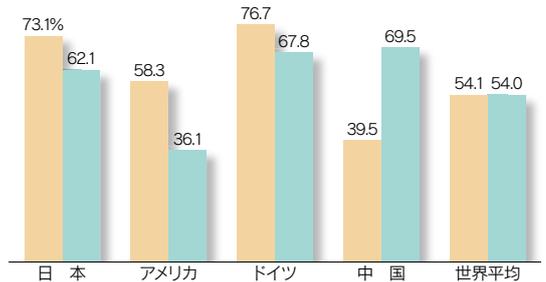


最も利用の多い洋紙は「パルプと古紙」から作られます。 日本の古紙回収率と利用率は 世界トップクラス。

回収率=古紙回収量/紙・板紙消費量

各国の古紙回収率及び利用率<2008>

利用率=古紙消費量/紙・板紙生産量



● **出前でアドバイスを**
自分史など本をつくりたいと考えている人のために、印刷担当者と編集者がお伺いしてアドバイスをいたします。グループでもどうぞ。お気軽にお申し込みください。

● **記念誌で歴史を残す**
企業や団体が二十年、三十年と歴史を重ねていくうちに、人が変

わったり資料が散逸したりします。節目の年に記念誌の制作はいかがですか。企画、編集、印刷、どの段階からでもご用命を承ります。

● **小紙をお送りします**
忙しい毎日に、ほっと一息つける話題を提供していきたいと願っている小紙です。ご希望の方に無料でお送りいたします。印刷紙工までお申し込みください。

筆者は札幌鉄道病院名誉院長。サルコイドーシス(胸部の肉腫芽疾患)の権威として知られ、現在は札幌と市立根室病院を行走来しています。

タイトルにあるとおり、筆者の経歴はなぜか5で割り切れることばかり。例えばアスベスト研究四十年、札幌ねむろ会会長十年、仲間と始めた誕生祝賀会が十五年、名誉院長になって五年などなど。

本書の十年ほど前に出版した

「すべて5で割り切れる人生」には、昭和五年十月十五日生まれに始まる十項目があり、よくよく5に縁のある人のようです。

今回の内容は、そう簡単には割り切れない医師としての歩み、研究の足跡も記されているほか、地域や友人、スタッフとの交流、趣味の話など、いわば肩の凝らない人生回顧録といったところ。人の生命を預かる仕事も、こうした息抜きがなくては継続できないということでしょう。

「なぜか5で割り切れる人生」

80歳になって

平賀洋明



<B5判・92ページ>



つくってみませんか
句集・歌集・詩集・小説・随筆集……
自伝・体験記・回想集……
画集・写真集